



つよい子

余市町立大川小学校 学校だより
第 8 号
令和 8 年 9 月 29 日発行

【令和8年度重点目標】・自分の思いを語り、相手の考えを認め、自己調整しながら主体的に学ぶ子どもの育成
・『心・環境・関係』を整え、自ら考えて行動する子どもの育成

『任せつつ、任せない』授業と子育て

～ 大人の役割 ～

校長 大山 敏広

◆秋の訪れを実感する時期となりました。夏の暑さの記憶がどんどん薄らいで、早まる日暮れとともに秋色が深さを増してきています。報道によるとインフルエンザが例年にない早い時期に流行しているようです。学校でも予防を呼びかけて参ります。

◆この時期、校内では楽器の音や爽やかな歌声が響いています。10月24日（土）の「学習発表会」では、日常の学習の成果を御覧いただくことができるよう、各学年のカリキュラムに沿って学習を進めているところです。また、教室を覗くと、子どもたちが楽しそうにグループで話し合っている場面を目にすることがあります。いわゆる「子どもたちの主体的な学び」です。

◆しかし、私たちはただ子どもたちに「任せっきりにしているわけではありません。教員が日頃から意識しているのは「子どもに任せつつ、任せない授業」づくりです。教えるべき基礎・基本やルールの部分は、授業の最初や要所でしっかりと教えます。その上で「さあ、やっぺららん」と子どもたちに委ねる場面をつくります。一見すると子どもたちが自由に学んでいるように見えますが、教員は「どこでつまずくか」「どんなヒントが必要か」「脱線しそうになっていないか」を観察し、いつでも手を差し伸べられるよう、目や心を離さずにしっかりと「グリップ（掌握）」します。

◆この「任せつつ、任せない」授業展開や関わり方は、子育てそのもののようになります。

例えば、家庭での学習や手伝いの場面でも「任せつつ、任せない」場面があるはずで

す。…「もう自分一人でするでしょ」と完全に子どもに任せたようなことを言いながら、途中でつまずいたり、やり方が分からなくなって投げ出したりしていないかを横目でちらちらと見守ること…ありませんか？まさに、その「任せて、任せない」視点が、子育てにおいても学校の授業においても大切だと私は考えています。

◆子どもには自立を促し、取り組ませつつも、大人がしっかりとグリップ（掌握）し、導く軸を持つことこそが、子どもたちの生きる力を育むための「大人（保護者）の役割」なのだと感じます。そして、大人がそのような視点や意識をもつことが、子どもの自立への道筋を担っているようにも感じます。

◆当然のことながら

「子どもを信じて任せること」と「放任すること」は違います。時には委ねつつ、必要なタイミングで、時にはしっかりと導く。そんな関わり方を学校と家庭が手を携えながら実践していけたら幸いです。



◆令和8年度も折り返しを迎えました。後期も人との関わりやつながりから視野を広げて学び、成功も失敗も糧にしながら「生きてはたらく力」を育んでいけるよう努めて参ります。後期も引き続き、御理解と温かな御支援を賜りますようお願い申し上げます。